

留学報告書

自己成長

外からみた日本の素晴らしさと海外の面白さ

マキーワン大学
外国語学部(中期)

留学に行く前の自分は、英語はただの教科であり、振り返ると本心で余り熱心に勉強していませんでした。何となく、「英語を自由に話せたらカッコイイな」といった楽観的な見方をしていました。しかし、この留学を通して英語の可能性と重要性を心から実感でき、カナダの思い出は一生の財産になりました。

2023年9月から4ヶ月間エドモントンにあるマキーワン大学に留学していました。エドモントンは自然豊かな街でとても住みやすい環境でした。北海道より北にあるので勿論、冬は途轍もなく寒いですが、2023年は100年に一度の暖冬であまり雪は降りませんでした。それでも私がいた時は -16°C の世界を体験出来ました。大学周辺は発展していて交通の便がよく、すぐ近くのダウンタウンにはバーやレストラン、お洒落なお店が沢山あります。そこで私はこの留学を通して、日本の素晴らしさと世界の厳しさを実感しました。



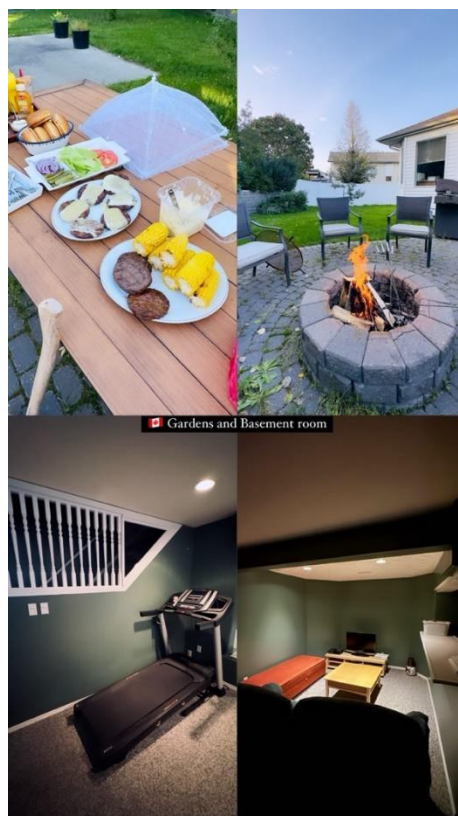
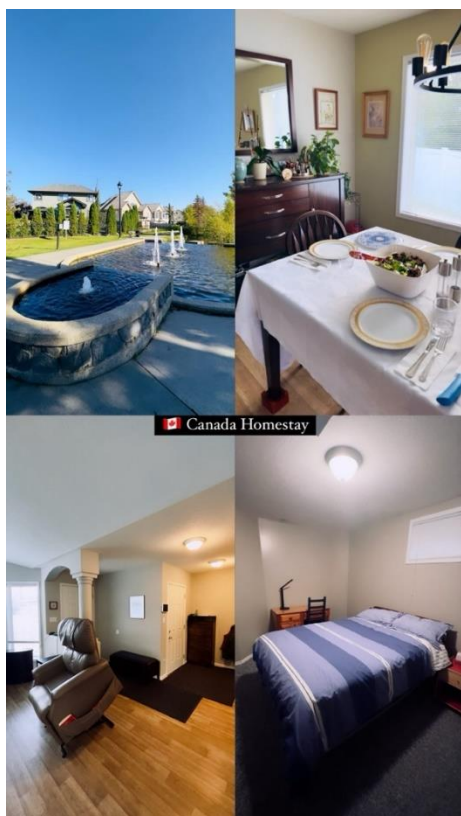
日本を離れる当日も自分が今から 1 人でカナダへ行く実感は沸かず、家を出て成田空港へ向かいました。夏休みに色んな友人達と送別会を沢山したおかげで寂しさもなく、やっとこの日が来たのかという新たな環境への期待に心が躍りました。しかし税関前で家族と別れて急に 1 人になった時の孤独感と寂しさは今でも鮮明に覚えています。振り返るとあの時が一番寂しいと感じた時です。現地に着いてからはもっとエドモントンに居たいと思い、最終日が近づくにつれ帰りたくない、あと 3 か月は過ごしたいと思うくらい快適で楽しかったです。



授業はレベルごとに分けられ、私は中級クラスでした。クラスメートは全員私よりはある年上で親世代が多く、全員カナダの永住権を持っている人達でした。アフリカ、ヨーロッパ、東南アジア、中国、韓国やドバイと様々な国の人達です。3つの授業を朝 9時から 2 時半、月曜から木曜まで受け金曜日はオンライン授業と課題をやります。先生はとても私に優しくしてくれ授業の雑談で日本のことをよく話してくれました。ボキャブラリーの授業が 1 番難しく、ついていくのが大変でした。1つの単語から品詞分類することで意味の違いを理解していく内容です。ライティングの授業は 1 時間の間にエッセイを毎週書くというものでした。初めは全然書けなく難しかったですが、先生が大学の CCS に全員が書いたエッセイを載せるのでクラスメートのいいと思った表現やフレーズを参考に真似してライティング力が身に付きました。周りはレベルの高い人達ばかりで、なぜ十分英語ができるのに ESL (English as a Second Language) コースを取っているのだろうという疑問と焦りでもっと英語を日本にいた時にやればよかったと後悔しました。スピーキングの授業で話し合いをしても、脱力感のあるスラスラと英語を話す人が多く、レベルの差を感じました。年齢層が高く、他のクラスメートは仕事をしながら通っているので、仲良くなっても友達として遊びに行くことは難しく、年齢に近い他の授業(教職課程)のクラスに入って話しかけ、授業後によく遊びに出かけていました。



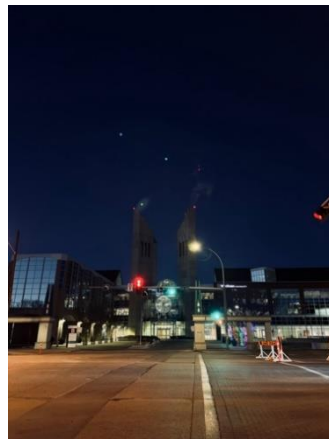
私は大学の寮ではなく、ホームステイを選びました。理由は何となくこちらの方が楽しいと思ったからです。ホームステイ先の家は大学から 15 km離れたドンズデールの高級住宅街にありました。大学からバスで1時間以上の場所にあり、とても静かで落ち着いた雰囲気なのんびりとした場所でした。家から歩いて3分のところに大きな噴水池とノースサスカチュワン川と森を見渡せる展望台があります。ホストマザーは教会のオーナーで学生の頃、日本と韓国への留学経験があり、また若い時には日本の大学と小学校で英語の先生をしていました。日本の事を深く理解していて私を家族の一員として温かく迎え入れてくれました。その為、毎朝ご飯と味噌汁に日本の緑茶と海苔を用意してくれ、ホストマザーにとっても感謝しています。ホストファザーは話好きのウクライナ系の人で英語とロシア語のバイリンガルです。大学の図書館司書をしていてとても知識人で Mr. Wikipedia と呼ばれています。ホストファザーの英語の発音はロシア語混じりの独特で聞き取るのが難しく、いつも何を話しているのか最終日までよく分かりませんでした。しかしその分、英検のリスニング対策としては凄く恵まれている環境なのだと気づきました。16 歳の息子は海軍の学校に通っていました。背がとても高く大きく私が弟のような様に見られます。6 ヶ月の子犬の黒プードルは社交的でよく一緒に遊んでいました。料理はとても美味しく食べ放題で和洋中とインドネシアや韓国、ベトナム料理も食べました。休みの日はホストファミリーがいろんな場所へ連れていってくれ、国立公園、博物館、岩山を登ってオーロラを見に行きました。また親戚や従兄弟とのパーティーが週末にあり、毎日を楽しみ過ごしました。私の部屋は地下にあり、地下のリビングルームと2部屋が使えました。初めの頃はホストファミリーの話すスピードと発音に慣れず、ありたっけのジェスチャーで頑張りました。とても親日な家族で私の下手な英語をいつも頷いて聞いてくれ素晴らしい家族でした。めぐり逢いに感謝しています。



買い物については、物価が日本の2～3倍と高く節約を心掛けました。日本の食べ物(鮭やラーメン)やゲーム機、キャラクターが凄く人気なのだと気づき日本の魅力を再認識出来ました。スターバックスの価格が日本とあまり変わらないので、スターバックスの飲み物は一番よく利用しました。店長が日本語を学んでいて少し日本語が話せ、店で会うたびに仲良くなり土日は2人でショッピングモールへ出かけよく遊びに出かけました。僕が日本語を教える代わりにご飯をご馳走してくれ、良い経験が出来ました。



良い経験の一方で、この留学を通して日本の素晴らしさを実感出来ました。なぜなら、大学周辺のダウントウンは決して治安が良いとは言えないからです。大学が始まった初日、ホストマザーはダウントウンには1人で行かないよう私に忠告しました。エドモントンのダウントウンは都心で発展してお洒落な店ばかりです。しかし特に平日の昼間は頻繁にホームレスの人を見かけ、駅やバス停にはドラッグで倒れている人が沢山いたりして、大きな経済格差を実感しました。また外を歩いていると車の中から大声でアジア系差別を受け、移民大国の問題に気づく事が出来ました。



留学する前の私はマイペースで楽観的に生きていましたが、日本人が少ないエドモントンでは英語力と危機管理能力が大事になります。日本では落とし物の多くは戻ってきますが、海外は決してそうではありません。また携帯の契約を現地に着いてからしたので騙されていないか気を付ける必要がありました。9月頃はお店や先生のネイティブ英語についていくのが大変で分からない事だらけでしたが、毎日耳にするうちに徐々に慣れていきました。11月頃になるとお店で値下げ交渉もできるようになり、街やレストランで知らない人に話しかけて雑談出来る様になりました。海外の面白いところは、一人一人が自分の個性や好きなことを大切にしているポジティブで明るく、時には危ないこともある事です。自分に強い信念や軸をもっている人が多く、留学を通して自分はこれから何を大切に生きていこうか自己理解を深めることができました。また英語を使えば色んな人と話すことができ、情報を得られることを身をもって体感し、カナダで学んだ経験をこれからの毎日に活かしていきたいです。そしていつかホストファミリーとカナダの友人に再会してさらレベルアップした自分を見せたいと思います。

